



「地域共生のいえ」とは、オーナー自らの意思により家・建物を地域の公益的かつ営利を目的としないまちづくり活動の場として地域に役立てる取り組みです。

# 地域共生のいえ かわら版

## 第5号

発行月：平成27年3月31日

発行：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

ふ れ る ・ つ な が る ・ ひ ろ が る

今号でとりあげる“いえ”  
 あかねこうぼう 1 在林館 2 ケアラーズカフェ KIMAMA 3  
 いいおかさんちであ・そ・ぼ 4 あばら屋 春夏 5 眞喜楼 6 野草の会・こめこめ庵 7



地域共生のいえ  
 かわら版  
 第5号

## 先生が生徒に、生徒が先生に

### 1 あかねこうぼう

いわば、地域の笑顔工房です



■DATA  
 所在地 祖師谷 4-7-18  
 連絡先 03-3482-1818 (大嶋)  
 活動日 お問い合わせください

#### 皆さんの手しごとに助けてもらう 春休み子ども工房

玄関を入ると、つるし雛が迎えてくれるこの日のあかねこうぼうは、春休み子ども工房に向けて準備ワークショップの真っ最中。

「はい、じゃ次は毛糸のブローチの作り方を宮岡さんが伝授します」前もって用意したキットが配られ、皆が真剣に作り方を聞いて作っていく。2015年で6年目を迎えるあかねこうぼう。現在では軍手人形の会や手編みの会など、10種類もの教室が開かれている。春休み、夏休みの子ども工房は、2日間で延べ100名を超える子どもたちが来場するイベントへと成長した。多くの子どもたちに手しごと体験を伝えるために教室の先生、生徒の関係なく、作り方を確認し合い、当日の運営に備えるのが準備ワークショップの目的だ。先生が生徒に、生徒が先生になり、ある人は刺繍を、またある人はちぎり絵のやり方を和気あいあいと伝えていく。

オーナーの大嶋夕子さんは「3年目まではしんどくて、自分が何でもやらなくちゃという思いで一杯でした。けれど一旦立ち止まって考えたときに、そうだ！皆さんがやっているお教室に助けていただければ良いのだということに気づきました」と語る。

そこからはイベントごとに冒頭のような準備ワークショップを開催し、協力者を募ってきた。今回はこれでどう？と、皆さんが知恵をしぼって先生になってくれる。

宮岡子ヨさんは「手編みの会」の生徒さんで最高齢の90歳。北海道の函館にお住まいだったが、娘さんの住む祖師谷へ来ていたところ、あかねこうぼうの情報を聞き訪れたのが最初だと言う。今ではこの魅力にすっかりはまり、手編みの会や和布の会の生徒さんにもなった。



「ここがあるし、お友達も出来たから函館から引っ越してこようと思うの」とうれしそうに話す。

#### 迎える側も参加する側も 皆が楽しく

最近では大嶋さんのご主人も他の地域共生のいえで囲碁を打ったり、市民緑地ボランティアで草抜きをやったりとご主人なりの地域活動を楽しんでいると言う。さらには今回の春休み子ども工房では、参加する男の子のために「わりばし鉄砲」の作り方を伝授する先生にもなるそうだ。

「少しずつ、少しずつ、迎える側も参加する人も両方が楽しいと思えるかたちになってきた気がします」と大嶋さん。

初期はダイニングも開放していたが、現在はプライベート部分として区分し、生活空間と開放空間を明確に分けている。これも気持ちが楽になったひとつの要因だという。

いえをひらくことは、日常の暮らしと隣り合わせ。ひらいてみてやってみて、自分たちに合ったかたちに変えてみる。こうしてできた無理のないかたちはうれしい変化をいくつも生んでいるようだ。最近では「大好きな機織りする時間が少しだけ持っています」と、大嶋さんは満面の笑みで答えてくれた。

## まちの記憶の「居場所」として

### 2 在林館

ありりん かん  
 木漏れ日のギャラリー



■DATA  
 所在地 羽根木2-34-4  
 連絡先 03-3321-0530  
 HP <http://aririnkan.blog.fc2.com>  
 活動日 毎週木曜日14:00~18:00  
 (8月はお休み)

#### 静かな時間とていねいな暮らしに 向き合う研究者の目線

在塚礼子さんがオーナーの在林館は、いつ行っても静けさで満たされている。コブシ、モッコウバラ、ハナミズキなどなど在塚家の時間に寄り添ってきた木々に迎えられ、こちらもゆったりとした気分で展示を眺める。訪れたこの日は「あとみよそわか」展がひらかれていた。「まいにちが小春日和 あとみよそわか」同じ言葉の書が貼られているが、どれも書いた人は違うようだ。これは在塚さんが主宰する書道教室「在林舎クラブ 書の会」の皆さんの書。小学生から高齢の人まで多世代が書いた書は眺めていてあきない。

「まいにちが小春日和」は、建築家の津端修一・英子夫妻の言葉。「あとみよそわか」は、幸田露伴が娘の文さんに、お掃除が終わったらちゃんと振り返って始末がなっているか確認しなさいという「呪文」として教えていた言葉だ。90歳を迎えた津端夫妻は「まいにちが小春日和」の後に「あとみよそわか」と唱え続けて毎日過ごしているそうだ。在塚さんは、その暮らしに共感したことをきっかけに今回の展示を企画した。



大学教授だった在塚さんは自分の専門としても「住む」ことや「暮らす」ことを研究してきた。「こちらは自宅ですから、好き勝手責任編集です」と笑う。3年目を迎えた自宅のギャラリーはどの企画展示も自分が暮らしてきたまちへの愛情が込められている。

「34番地は80歳」展では在林館がある住宅地の歴史を展示した。「給水所と私」展で、近所にある和田堀給水所の建替えを惜しみ、住民にとっての価値をと

りあげた展示をすると、給水所を遊び場としていたかつての子どもたちの貴重な話も聞くことができた。

まさに「生きている展示」を楽しんでいる感じだ。在林館は毎週木曜日に開館しているが、大原1丁目にある「旧柳澤邸」でのイベントと連動した開館日を設けたり、ギャラリートークを土曜日に開催したりと要望があれば少しずつ活動日を広げている。

#### まちの歴史館みたいな場所に

住み継がれた家でこのような展示を続ける原動力をたずねると、「みつわちょうにいきたくない」という1冊の本を手渡された。在塚さんが在職中に学生たちと調査し、退職後に住民との会を作って書き上げた絵本だ。第二次世界大戦中に住宅営団(1923-1946)が開発した埼玉県蕨市の住宅地のことが絵本になっている。「この調査の時にたくさんさんの昔の資料が集ってきてね、その時に『記憶の居場所』みたいなところがあつたらよいのにと感じたんです」と語ってくれた。祖父の代から住んでいる自宅が、近現代の「まちの歴史館」みたいになっていたらと願っていると言う。

在塚さんはかつての「休み石」の存在を教えてくれた。誰もがひと休みできるベンチのような「休み石」が置いてある民家がかつてはあつた史実には、いえをひらくことの原型があるのかもしれない。まちの人にとっても、かつての記憶たちにとっても「休み石」のような在林館は、今日も静かに木々のみどりが迎えてくれている。

## “セルフグリーンサポートケア” ワークショップを開催しました

### 3 ケアラーズカフェKIMAMA

介護に関する情報交換サロン

家族を介護している人達が、ひと息つける場所を提供したいと、一昨年の9月に開設したケアラーズカフェ。これまでに様々な講演会や講座も開催してきました。2月19日(木)には一般社団法人「グリーンサポートせたがや」とのコラボで、「セルフグリーンサポートケア」

のワークショップ講座を開きました。当日は、家族との死別などを体験された方々を中心に17名程が集まり、カラフルな素材を使って、「私の人生」という作品をつくり、各々が喪失体験を含めた自らの人生を語り、想いを共有しました。(岩瀬はるみ)

#### 最近のトピックス



■DATA  
 所在地 世田谷区桜丘5-15-11  
 連絡先 03-3439-1650  
 HP <http://cckimama.blog.fc2.com/>  
 ※Facebookを開設しました  
 「ケアラーズカフェkimama」  
 活動日 第3木曜日 13:00~16:00

## 子育てに生かすコミュニケーション セミナーを開催しました！

### 4 いいおかさんちであ・そ・ぼ

地域の子ども、ママさんを支える昭和なうち

2月第2日曜のいいおかさんちでは、いつもとは趣向を変えて、自分を知る、相手を知るというセミナーを金井聖子先生に行っていただきました。子どもたちがそれぞれのびのびと遊んでいる中、参加者が2人組になり、じゃんけんを勝った人が、負けた人に感謝してみ

ようというアクティビティから開始。初めてお目にかかった相手でも、意識したら、色々な感謝が溢れるものですね！抑揚やスピードなど会話の様子を意識したり、チャートに取り組むことで、自分の傾向を知る日曜日の朝。沢山の気づきがあったようでした。(山口靖代)


#### 最近のトピックス



■DATA  
 所在地 玉川12-9-19  
 連絡先 03-3445-5445  
 HP [http://www.yurutsunajp/real\\_report/pg403.html](http://www.yurutsunajp/real_report/pg403.html)  
 活動日 第2・第4日曜日  
 10:00~14:00  
 運営 地域でいるんな世代が集う場づくりプロジェクト

## 一歩ずつ、皆さんとつながって

**5 あばら屋 春夏**  
 介護の日に  
 ティースプーン一杯の気分転換



### 足を運ぶことができない人にも

そよ風よ吹いておくれ！  
 おしゃれに！  
 かつこよく！  
 介護の世界に吹いておくれ  
 吹かないところがないように  
 介護っておしゃれ！  
 介護ってかつこいい！


あばら屋春夏のチラシにはオーナーの安田宏子さんの想いが詰まった自作の詩が掲載されている。介護がおしゃれ？と思うかもしれない。安田さんに問うと、自身の経験を重ね合わせるように「介護の期間は近い人ですらも急に遠くなり、理解してもらえないさびしい思いをしている人がいるかもしれない」と話し、「でもね」とひと息おいて、「色々なことを脇において、介護を必要としている人に尽くす、その行為はとてつもなく素晴らしいし、おしゃれだと思うの」と話してくれた。たとえ今、ここへ足を運べない人も、チラシを見てこんな場所があるのだと知って孤立しないでほしい、と安田さんは願っている。

安田さんの熱いラブコールは着実に伝わり3年目を迎えるあばら屋春夏には、ちよとずつではあるが来訪者が増え、交流が生まれている。見守る“あんしんすこやかセンター”の職員とも連携がとれているようだ。

人から人へ。つながり続けることで、笑顔が増えていききっかけになればうれしいと話す。介護の場に吹くそよ風は、こんな場から吹きはじめるのかもしれない。

■DATA あばら屋 春夏  
 所在地 新町2-34-13  
 連絡先 03-3420-2649  
 活動日 第2火曜日10:00~12:00

**6 眞喜楼**  
 「基」コミュニケーション・サロン



### ここでなくても

「ポチポチやっていますよー、みんなで仲良く」という大澤佳子さんの顔は子どものように無邪気な笑顔だ。自宅で月に2度の囲碁サロンをひらいて、この6月で2年が経つ。最近の「ちよとうれしかったこと」は、ここで囲碁デビューした人が、ご自宅でも囲碁をしている、という話が聞けたこと。もうひとつは、別の地域共生のいえを訪れた時にそのいえのご主人とここでのいつものメンバーが囲碁を打っていたのに遭遇したこと。囲碁を通して人の輪が広がり、自宅をひらくことのうれしさも実感しているようだ。

大澤さんは、眞喜楼としていえをひらく前から、ホスピスや病院でボランティアを続けている。忙しくしているのに月に2回のこのペースがちょうどよいと話す。最近では、図書館で英語教室を開催していた友人に図書館の改修工事の期間だけ、教室として場所を貸し出すこともやってみた。

最後に「これは寝言なんです」と前置きして、「今の17時までという時間をもう少し長い時間あけてみたら学生さんやお勤めの方もいらっしゃれるかなあ、なんて」と、またいたずらっ子のように目を輝かせて笑った。

■DATA 眞喜楼  
 所在地 砧6丁目  
 連絡先 03-3415-1406  
 活動日 第2、4木曜日14:00~17:00

### 多彩な窓のかたちを育て

“まちの窓”としてひらいている地域共生のいえは、成り立ちもかたちも多様だ。囲碁を通じて、介護を通して、窓をひらき交流が生まれることでお互いが育まれる。どちらのいえも一歩一歩を大切に、けれど着実に必要としている人に届き、今日も成長している。

## いえ ♡ モノノゴト

### 7 野草の会・こめこめ庵の羽黒赤カブ漬

ご近所の集いの場



水曜日のこめこめカフェに並ぶ、米村さんが漬けた鮮やかな赤色のカブの漬物。「これは羽黒カブ。焼き畑農法で作ったこのカブじゃないとね」こめこめ庵オーナーの米村よね子さんの生まれ故郷は出羽三山の登山口でもある山形県西川町大字岩根沢。雪深い山里の保存食、漬物は各家の味を代々伝えてきた。

旅人を泊め、もてなすことが当たり前だった米村さんの生家。おもてなしのDNAがまつたこだわりの赤カブ漬物をひと口噛むと口の中に、みずみずしさや旨味が広がる、自慢の一品だ。

■DATA  
 所在地 弦巻1-37-10  
 連絡先 03-3428-2284  
 活動日 水曜日11:00~15:00  
 ※5週ある月は第1週が休み



### こまじいのうち

(文京区駒込)

■東京都地域の底力再生事業助成  
 東京都が自治会・町会の地域課題を解決する取り組みに対して助成する制度。  
 「こまじいのうち」は、この助成金を活用して運営している。

■お問い合わせ  
 こまじいのうち  
 主催 駒込地区町会連合会  
 所在地 文京区駒込本駒込5-11-4  
 連絡先 070-6998-5114  
 活動日 火曜~金曜 10:00~15:00  
<https://www.facebook.com/komajii>

木漏れ日のギャラリー 在林館  
 企画展「1924年欧州絵葉書 旅日記：フランス・スイス編」  
 4月~6月 毎週木曜日 14時~18時  
 欧米8ヶ月の旅で収集した絵葉書と書きこまれた旅日記から第一次大戦後の各国の様子と旅人の思いを読み取ります。  
 ■DATA  
 所在地 羽根木2-34-4  
 連絡先 03-3321-0530  
<http://aririnkan.blog.fc2.com/>

大正から引き継がれる空間 読書空間みかも  
 読書空間みかも一箱古本市  
 4月19日、6月21日、8月16日(偶数月第3日曜)  
 いずれも11時~17時  
 ■DATA  
 所在地 奥沢2-33-2 連絡先 03-3718-2011  
<http://www.tamamati.com/network/net6.html>

まちのお茶の間 岡さんのいえTOMO  
 岡さんのいえサンデークラブ  
 4月から毎週日曜日 14時~16時  
 水彩クラブ/鉄ちゃんクラブ/囲碁クラブ/手芸クラブが始まります！  
 詳細は下記までお問い合わせください。  
 ■DATA  
 所在地 上北沢3-5-7 連絡先 090-8332-7514  
 E-mail okasannoie.tomo@gmail.com

介護に関する情報交換サロン ケアラーズカフェKIMAMA  
 介護保険制度改正からみえてくる、これからの私たちの暮らし方  
 4月16日(木)13時半~16時  
 4月からの介護保険制度改正により、介護サービス(要支援1,2を中心に)がどうなるのかをケアマネージャーさんにお話していただきます。  
 ■DATA  
 所在地 桜丘5-15-11 連絡先 03-3439-1650

## クロスロード

文京区駒込にある「こまじいのうち」。町会連合会と地域活動センター、社会福祉協議会がタッグを組んだ多世代交流の居場所づくりの取り組みをご紹介します。

### ■古くから住む人も新しく来た人も こまじいのうちに集って

住宅街に「こまじいのうち」ののぼりがはためいている。引き戸が開き、中から弾けるような笑い声と共に赤ちゃんを連れてお母さんが出てきた。「じゃあ、また明日ねー」笑顔で帰っていく。昭和の風情を残す一軒家は、流れている時間も昭和な感じだ。

この家はオーナーの秋元康雄さんが叔母さんから譲り受け、「セカンドハウス」として飲み会などを開いていた家。神明西部町会の副会長でもある秋元さんは長年このまちで暮らし、まちの変遷を眺めてきた。地域が抱える問題も様変わりし、最近では孤立の問題が目につくようになった。この家を「よかったら使って」と町会連合会に提案したことから始まる。駒込地域活動センターと文京区社会福祉協議会がそれぞれの立場での協力支援に取り組んだ。

2013年5月からは運営方法などについて実行委員会が行われ、12町会、民生委員、青少年委員など多様な主体に呼びかけてスタート。こうして同年10月1日「こまじいのうち」としてオープンした。「高齢者プログラム」や「子育て最中のお母さん向けプログラム」などを開催する中で月平均300人が訪れ、1年余りで様々な人が使用する場となった。

現在では、一週間がほぼ埋まり、大にぎわいとなっている。利用者として訪れた人が先生になったり、ボランティアスタッフになったりと、多様な関わり方も生まれている。

秋元さんは「昔はどこの家にも書生さんが下宿していたもの。またこんなふうになぎやかになって、子どもや若い人にかまってもらえるのはうれしいねえ」と笑顔だ。ボランティアスタッフの近藤美加さんは結婚を機に文京区へ引っ越してきた。「私も子どもも親戚のような皆さんに育ててもらってます」と話す。

地縁の住民の発意を行政の専門知識がサポートするこの取り組みは注目を浴び、第2、第3の「こまじいのうち」を生み出す動きが出てきている。

## 掲示板

### 「トラまち」から「オーナーズプラス会議」(1月)と「訪問ツアー」(2月)を開催しました。

トラストまちづくりでは、地域共生のいえのオーナーや運営協力者の情報交換・共有の場「オーナーズプラス会議」を開催しています。今回は「岡さんのいえ TOMO」を会場に、新たに仲間入りした「いえ」の紹介と各いえの近況報告を行いました。現地での開催は今回が初めてですが、多忙ゆえなかなか他の「いえ」に足

を運ぶことができないオーナーのみなさんと、他の現場を訪問する機会になったようです。今回をきっかけに、「いえ」同士の更なるつながりを深めていけたらと思います。

2月には一般の方が対象の「訪問ツアー」を開催しました。「いいおかしんちであ・そ・ぼ」と「シェア奥沢」を訪問し、オーナーや運営協

力者の方から、「いえ」をひらいた経緯や活動の様子をお伺いしました。運営や広報、ご近所との付き合い方など活発に質問が飛び交い、参加者から「活動に参加したい!」「自分がやりたい活動イメージが広がった!」と感想をいただきました。新たな「いえ」の誕生や活動の広がりが期待できるツアーになりました。(担当:SY)

